

「神戸マラソン将来構想」に係る提言

令和6(2024)年1月23日

神戸マラソンの概要

【歴史】

1981年 第1回神戸全日本女子20kmロードレース

2001年 第1回神戸全日本女子ハーフマラソン

2011年 **第1回神戸マラソン**

→以降、神戸マラソン2023まで11回開催

【特徴】

○大会テーマ「**感謝と友情**」

→阪神・淡路大震災以降、兵庫・神戸に手を差し伸べていただいた国内外の人々への**感謝の気持ち**の表明と、来訪する全ての人々が**仲間である**という考え

○制限時間**7時間**を維持、完走率は**95%超**

○60万人を超える途切れない沿道応援、企業や地域団体からの多くの支援

神戸マラソン将来構想検討委員会の経緯

マラソン大会を取り巻く環境が大きく変化

- ・ランナー人口の**高齢化**
- ・新型コロナウイルス感染症による**大会の中止**
- ・警備費高騰の影響による参加費の大幅な値上げなどにより、**申込者数が減少**



「神戸マラソン将来構想検討委員会」を設置

「神戸マラソン」のこれまでの成果を検証し、**特色ある都市型市民マラソン**として魅力を高め、**持続可能な大会**とするための方策を策定する

令和5年3月3日（第1回）～令和5年12月18日（第5回） 計5回開催
山口委員長他 計17名の委員（途中交代の委員を含む）

神戸マラソンの課題の整理

- ①記録向上・安全性と都市の魅力発信を両立したコース設定
- ②エリート選手参加などによる競技性の向上
- ③海外誘客や地元商店街と連携した賑わいづくり
- ④沿道地域住民、事業者への配慮
- ⑤既存のコースを最大限に活かし、調整コスト・時間を削減
- ⑥持続的な運営体制・財的基盤の確立



これらの課題についての具体的な対応策が必要

「神戸マラソン将来構想」に係る提言内容

1 課題に対応する具体的方策 (5項目)

① フィニッシュ場所の変更

- ・フィニッシュをウォーターフロントに変更
⇒神戸ポートタワー等の眺望、繁華街に近いエリアになり、
賑わいの創出と経済効果

② 魅力と競技性を高める新たなコース設定

- ・明石市域までコースを延伸
⇒明石海峡大橋の眺望を最大限に活かしたコース
- ・神戸大橋を経由しないコース
⇒コース終盤の高低差の解消などによる、タイムの短縮と
ユニバーサルデザインに配慮したコース

③ 「車いすやファミリーラン、ファンラン」など多様な種目設定

- ・フラットなコース設定による車いす種目の開催が可能
- ・ファミリーラン、ファンランにより多くの世代の参加促進
⇒新たなマラソンファンの獲得、マラソン文化の醸成

「神戸マラソン将来構想」に係る提言内容

1 課題に対応する具体的方策

- ④ 海外ランナー誘客の促進によるインバウンド対策
 - ・効果的な情報発信による知名度向上
 - ・兵庫・神戸の特色を活かしたおもてなしなどの魅力創出
 - ・兵庫全域でのツーリズムの促進・充実
 - ⇒ 海外ランナーの誘客促進

- ⑤ 神戸マラソンのブランド化の推進による持続可能な大会運営
 - ・ランナーに選ばれる大会としてブランド化の推進
 - ・日本マラソン発祥の地に関連したイベントの実施
 - ・よりランナーが参加しやすい時期を検討
 - ⇒ 協賛金の獲得などによる持続可能な大会の実現

「神戸マラソン将来構想」に係る提言内容

2 大会テーマの更なる浸透

- ・大会テーマ「**感謝と友情**」は、震災30年を迎える中、震災からの復興の感謝を伝え友情を浸透させる普遍的で**大会開催意義の根幹**

⇒ 今後も維持・継続

⇒ 自然災害への支援だけでなく、そこから波及した支援を必要とする領域への発展

(神戸マラソンフレンドシップバンクの運用見直し)

3 おわりに

- ・引き続き、**兵庫県、神戸市、(一財)兵庫陸上競技協会**の三者が一丸となった組織体制で、相互に**連携・補完**しあいながら、**世界に通用する神戸マラソン**として充実を図るべき

コース変更のイメージ

